

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602330		
法人名	大成産業株式会社		
事業所名	グループホーム利久		
所在地	福岡県久留米市合川町1392番地1		
自己評価作成日	令和5年1月9日	評価結果確定日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年1月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「地域に根差し、一人ひとりの思いを知り、気楽に生活して頂けるよう、お手伝いします。」を理念に掲げ、スタッフ一同、一人一人の利用者様がお自宅のようにくつろぎ、優しく寄り添い、笑顔がこぼれるように、明るく、楽しく生活を送れるよう日々支援しています。毎月行事を計画しドライブ、花見等の外出支援や日々の生活の中で玄関先での外気浴や日光浴、高良川の土手を散歩したりと季節の移ろいを感じたりできる支援を行っています。又事業所内でもバーベキュー、そうめん流し、クリスマス会、昼食作り等の行事を行っています。利用者様の健康管理についても日々の声掛け反応、様子観察、毎日のバイタルチェックにより異変時の早期発見に努め、協力医療機関との連携により素早く対応することができます。又住み慣れたホームで最期までの希望に対し、看取り介護の実績があります。最後に利用者様だけでなく働く職員も笑顔が多くあふれるホームであるよう日々取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「利久」は平成17年4月に設立。筑後川支流の高良川沿いにあり自然に囲まれ、季節の移ろいを感じられる場所にある。「地域に根差し、一人ひとりの思いを知り気楽に生活して頂けるようお手伝いいたします」の理念に基づき、優しく寄り添い、笑顔がこぼれる明るく・楽しく生活を送れるように支援しており、利用者とともに、働く職員も笑顔が溢れるホームであるように日々取り組んでいる。近隣には小学校・石橋文化センターなどがある。地域の伝統行事「左義長」、ごみ収集当番などに参加している。協力医療機関との連携により健康管理に努めている。また住み慣れたホームで最期までの希望に対し、地域の関係者と共に、事業所全体で真摯な取り組みを行っている。今後も地域福祉を支える存在として益々の発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を唱和し、業務に取り組んでいる。	理念は5年前に職員の思いや理想を話し合い作りあげた。玄関・事務所・廊下などに掲示しており、毎朝、朝礼時に唱和している。普段から理念について話し合いを行っており、個人目標などの話もしている。管理者、職員は理念を共有し実践につなげている。	職員各自が、理念に基づいた行動目標などを定め、個人面談などの時に、話し合いをされてみてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属している。さぎっちょ、子供みこし、獅子舞などの地域行事に参加し交流したり、資源ゴミの活動にも参加している。	自治会には所属しており、自治会長さんとのコミュニケーションを大事にしている。地域行事の「左義長」などに参加し交流したり、資源ゴミの活動にも参加している。地区の認知症サポーター養成講座にて「ファシリテーター」として管理者が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての理解等の話し合いの機会を設けている。又地域での認知症サポーター養成講座にて専門性を活かし助言等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所の状況、取り組み等報告し意見交換をしサービス向上に努めている。今期は書面開催で実施。	今期は書面開催で実施。自治会長・民生委員・校区代表・市役所・包括支援センターなどには、書面にて事業所の行事内容・利用者情報・ヒヤリハット事故報告・身体拘束適正化などを報告している。それぞれの課題について意見交換を行い、サービス向上に努めている。	コロナ禍のなか、運営推進会議は書面開催であるが、家族にも書面の議事録を送付されてみたらどうだろうか。事業所の取り組みなどがより深く理解してもらえるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。	コロナ禍以前は運営推進会議に参加してもらっていた。現在書面にて事業所の取り組みについて報告している。情報交換・質問・相談などを行い、良好な関係を構築するようにしている。介護保険の申請は役所に持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の組織編成し、3か月に1回会議を開催し、運営推進会議で報告している。マニュアルも整備し、内外部の研修を通して学ぶ機会を確保している。身体拘束の廃止のみならずスピーチロックや不適切な介護の廃止に努めている。	身体拘束廃止委員会は3か月に1回開催している。マニュアル・研修を通して学ぶ機会を得ている。玄関の施錠は行っていない。自治会主体の「近隣パトロール隊」に声かけなどの協力をお願いしている。身体拘束の廃止のみならず、スピーチロックや不適切な介護の廃止に努めている。気が付いたときに、管理者などが注意をしている。	

R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回高齢者虐待・身体拘束廃止について事業所研修を行っている。又虐待の芽を見逃さないように身体拘束廃止委員会や苦情の受付などの情報も活用している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にも後見人制度や日常生活自立支援事業を活用している方々がおられ、実例と内外部の研修を通して学ぶ機会がある。状況によって家族に制度のお知らせをしている。	成年後見制度の利用者が二人・日常生活自立支援事業利用者が一人いる。実例と内外部の研修を通して学ぶ機会がある。パンフレットも用意しており、制度利用の希望がある時は管理者が社会福祉協議会に相談する。	今後、社会福祉協議会に講師依頼などを頼み、勉強する機会を設けてみたらどうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、入居契約時に分かりやすく説明を行い、入居後もその都度、質問等に対応している。改定等ある場合は書類作成・説明を行い承諾を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方には些細な事でもご相談頂けるよう面会時等でコミュニケーションを図り信頼関係の構築を図っている。又契約時に苦情申し立て窓口について説明している。本人・家族の要望を受け、食事や訪問サービス等運営に反映させている。	家族の訪問時、電話などでコミュニケーションを図り、意見・要望などを頂いている。「利久だより」は家族に送付しており、状況報告をしている。意見箱の設置をしている。本人・家族からの要望を受け、食事・訪問サービスなどを、運営に反映させている。	意見箱の設置はあるが、意見の投書はないとの事。お便りの中に一筆便などを入れ、意見を入れやすくしてみたらどうか。表面に上がりにくい意見なども得ることができるのでないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットの会議、全体会議を行い、意見や提案を聞く機会を設け、行事や研修等に反映させている。	毎月の会議などで意見・提案などを話し合う機会があり、現場の職員の気付き・アイデアなどを取り入れてくれる。職員間でもラインにより、意見交換を行っている。食事レクなどに必要な食材・調味料・おやつなどの購入の相談にも、すぐに対応してくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇進・昇給など職員の処遇評価の基準を設け就業規則に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	外国人技能実習生を3名採用している。職員の採用時には国籍・年齢・性別・資格等を基準にせず、やる気や思いを尊重して採用している。又資格取得に関しても協力体制を整えている。	外国人の技能実習生を採用している。職員の祭用にあたっては、やる気・思いを尊重している。研修は月1回、職員が持ち回りでテーマを決めて行い、報告。資格取得のバックアップもあり、シフトの入れ替えも考えてくれる。休憩場所・時間もある。作業療法士の資格を持ち、相談を受けることもある。外国の人もそれぞれ得意な分野で活躍しており、能力を発揮し生き生きと勤務し、自己実現に向けている。	



R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外部研修等での学びの機会を設け人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	研修は係を決めて行う。インターネット・本などから取り出し研修資料を作成。社会福祉協議会からプロジェクターを借りて動画を見るなど、研修による学びの機会を設けている。新人職員に対しては「オンザジョブトレーニング」により指導し、知識・技術などのレベルアップを図っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの介護力等を把握し研修を受ける機会を設けている。又、新入職員に対してはOJTを通して指導レベルアップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム2施設との運営推進会議への相互参加の機会や事業所協議会の研修等で他事業所との交流、情報交換などを行い、サービス向上を図る取り組みをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様とコミュニケーションを図り、困りごと、不安な事、要望等把握確認を行っている。傍につき関わりを多く持つことで信頼関係の構築に取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居契約時に困りごと、不安な事、要望等把握確認を行っている。電話連絡、毎月のお手紙、面会時等で報告連絡する事で関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの重要度を把握し、他のサービス提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事に焦点を当て、スタッフと一緒に家事作業など行い共同生活での関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも買い物必要物品の準備など協力出来る事はして頂いてる。又入所間もなく帰宅訴えや不穏時等は電話や面会にて対応して頂いている。又面会時間の制限をせず積極的に面会出来る様配慮している。		

R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にもご友人が訪ねてきたりがある。外出行事等で昔行かれていた地域の名所等へ出かけている。入所前からデイケア利用を続けている方もおられる。	外出は事業所の車で桜見・美術館に個別対応で行っている。家族と一緒に外出された方もいる。グループホーム内でデイサービスに行かれていた利用者もいたが、現在「デイサービス利久」は休んでいる。今後、ようすを見ながら、再開する予定である。理美容は訪問理美容により対応している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々は居室に閉じ籠らず日中のほとんどの時間をリビングで過ごされている。利用者同士の関わり合い関係性を把握し家事作業等利用者同士で協力し行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の受け入れ先の相談も行き、その後の関わりも大切にしている。又死去での退所時にも馴染みの職員が通夜などにも出席し家族の精神面への配慮も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で表情や行動から思いや意向の把握に努めている。又本人本位の視点から検討している。	初回の訪問は管理者(ケアマネジャー兼務)が自宅・施設・病院などを訪問する。利用者・家族からこれまでの生活歴・趣味・想い・暮らし方の希望を聞き取る。施設職員・看護師などからも聞き取る。意思を伝えることが難しい方には、表情・仕草などから思いをくみ取る。職員は利用者を2~3名担当している。情報は職員全員で共有し、一人ひとりの想い、暮らし方の希望・意向に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族へ生活歴を尋ねフェイスシートへ記録している。入居後も会話やレクリエーション等で情報を収集している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶での一人ひとりの状態観察、申し送りでの情報の共有、バイタルチェックの記録を行い、一日一日の変化が分かりやすく把握出来るようにしている。心身状態の変化があれば報告、記録の徹底を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。毎月のユニット会議でも本人についての意見交換を行っている。又計画作成担当者と担当者で毎月のモニタリングを行っている。	職員全員で情報を共有し、毎月の会議で意見交換を行う。担当者会議では本人、家族の意見・要望を聞き、多職種からも意見をもらう。計画作成担当者と担当者で毎月モニタリングを行い、変化を見逃さないようにしている。モニタリング評価表は独自のもので、目標の達成・一部変更・継続など目で評価の結果がわかる。それぞれの意見・アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	

R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時に個人記録に目を通す様に徹底しており、その後の申し送りで情報の共有を行っている。心身状態の変化があれば記録し報告し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に合わせて他医療機関と連携し特別指示書による訪問看護サービスや訪問マッサージ、福祉用具の購入やデイケアの利用等柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し健康で安全な暮らしを支援し又地域で活動する大正琴やコーヒーショップ等の慰問等豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療関係の説明をし、本人のかかりつけ医の継続や連携医、訪問診療の定期往診により支援している。受診前後の情報は家族との共有を図っている。24時間の医療体制で入居者の健康に留意し支援している。	入居時に本人のかかりつけ医の継続や連携医、訪問診療の定期往診など柔軟に受診支援を行っている。月2回往診がある。他科受診などは家族又は職員が対応しており、職員が行くことが多い。受診前後の情報は家族との共有を図っており、職員間でも情報の共有を行う。24時間の医療体制で利用者の健康に留意し支援している。歯科往診は現在中止しているが、今後行う予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察、バイタルチェックを行い、異変時等すぐに報告し対応し適切な医療を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側へ情報提供を行っている。担当MSW、看護師からの治療経過などの情報提供も受けている。退院時にはカンファレンスに出席し退院後のスムーズなケアへの移行を出来るようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化した場合、看取りに関してのホームでの対応、説明を行い、事前確認書にて確認している。終末期には家族への説明、意向を何度も確認しながら他医療機関と連携し看取りケアを行っている。	今まで4名様の看取りを行い、今年は1名様の看取りを行った。事業所独自の看取りに関する指針があり事業所での対応・看取り介護に対する体制などの説明を行い事前に確認を得ている。終末期には家族への説明・意向を何度も確認しながら、医療関係と連携を行っている。事業所には看護師がおり、勉強会を行う。ターミナルケアの研修は管理者が行い、職員全員がターミナルの重要性を理解・共有をしている。	事業所独自の看取りの指針があり、利用者・家族に対しきめ細やかな事前の説明を行っている。看取り介護の考え方などについても職員全員で共有している。今後も終末期の介護について心をこめて行うことを望んでいる。

R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。又内外部の研修において学びスキルアップを図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定しての避難訓練を年2回実施。水害時は2階への垂直避難を想定している。緊急連絡網、緊急時自家発電機の整備も行っている。又自治会長への連絡で地域の協力を得られるように体制を整えている。	火災・地震を想定し年2回避難訓練を実施。水害時は2階への垂直避難を想定している。自治会長への連絡で地域の協力を得られよう体制を整えている。地域の防災訓練に参加したり、事業所での訓練に地域の方が参加されたこともないが、今後計画をしている。備蓄は米・タンク内に水・発電機などがあるが、今後備蓄は再確認する。	地域の防災訓練への参加、事業所での訓練時に、地域の住民の参加などについて、自治会長と相談されてみたらどうだろうか。備蓄についても再度チェックをされてはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し優しく丁寧な声掛け態度で対応を行っている。	個人情報保護・個人情報に関する基本方針がある。個人情報保護に関する同意書もあり、お便りの写真は同意を受けている。羞恥心への配慮・言葉かけに留意し、一人ひとりの人格を尊重している。利用者の自己決定を大切に本人のペースで過ごせるように希望に沿って支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けコミュニケーションを大事にし本人の思いや希望を把握できるよう努めている。自己決定本人の意思を大切に支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の自己決定を大切に本人のペースで気楽に過ごせるよう希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回のペースで訪問美容を利用している。行事の日等職員が化粧を手伝っている。服装に関しては選択肢を与え自己決定を促し対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はその人に合った形態で提供している。又好みを把握し昼食作りの行事で取り入れている。食事の準備、片付けはスタッフと一緒にしているが食事は一緒にしていない。	カロリー計算された献立が配食業者から配送されてくる。お正月などは行事食がある。第三水曜日は利用者のリクエストを聞き、職員が材料を購入し調理を行い、おやつホットケーキなども作った。誕生日にはケーキにデコレーションを行う。食事の準備・野菜の皮むき・餃子作り・片づけなどを職員と一緒にこなしている。	



R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量のチェックを行っている。飲み物を選択できるよう数種類用意し提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。本人の状態に合わせ介助を行い、うがいが出来ない方は歯磨きティッシュを使用し口腔内の清潔を保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が出来るよう排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表にて個別のリズムをつかんでいる。時間を見て、声かけによりトイレに誘導することで失禁やパッドの汚れが少なくなった。夜間は利用者の体調によりベッド上又はポータブルトイレを使用することもある。日中はトイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を把握し職員間で情報共有し、多めの水分摂取や腹部マッサージ等で排便を促す工夫を行っている。必要に応じて主治医と相談し下剤のコントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施している。一人ひとりの要望や状態に応じて温度や時間等対応を行っている。時にゆず湯や入浴剤を使用したり、又会話を弾ませたり、音楽を流す等入浴時間がリラックス出来るよう努めている。	入浴日は月・火・木・金のうち週2回。午前又は午後本人の希望により対応している。湯温なども本人の希望に沿うようにしており、ゆず湯・薔薇湯などにもする。入浴時にはリラックスできるようにクラシック音楽を流すなど、コミュニケーションの場として大事にしている。皮膚観察など健康チェックも行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は定めておらず個人のペースに合わせて支援している。就寝時には居室の寝具・室温調整を行い快適に眠れるように援助している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬情報を挿み確認し、変更時や注意事項等あれば医療連携シートや申し送りにて情報の共有を図っている。又症状の変化があれば主治医、調剤薬局と連携を取っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事、好きな事に焦点を当て役割や楽しみ事に取り組んで頂いている。又、行事にも取り入れている。		



R5.1自己・外部評価票(グループホーム利久)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事として買い物やドライブ。日常生活の中での外気浴や日光浴、高良川の土手の散歩等ホーム外での活動も実施している。家族との外出も支援している。	日常生活の中で外気浴や日光浴、高良川沿いの散歩で彼岸花を見つけたり、季節の移ろいを肌で感じてもらっている。事業所の駐車場で利用者、職員とバーベキューを行った。外出行事としてはドライブで桜見・百年公園のつつじ・コスモス街道などに個別対応で外出した。家族との外出も支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人でお金を所持管理されている方もおられる。買い物時支払いが可能な方は支払いをして頂いている。困難な方は代行している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の利用も可能である。毎月の家族へのお便りで一言書いて頂いている。手紙のやり取りについても希望があれば対応することは可能である。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や装飾をして居心地の良い空間作りを行っている。又換気に努めながら室温、空調管理に留意している。	事業所として動線・換気・室温などに工夫している。食事時はおのずと座る場所は決まってくる。リビングは明るく、心地よい音楽が流れている。季節の花や装飾により心安らぐ空間作りをしており、穏やかな日差しの中で午後の時間を過ごしている。浴室は各ユニットにあり、1階はリフト浴になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多数の利用者が座れるソファやテーブル席を設置しゆったりと過ごせる環境を整えている。一人になりたい時は自室で過ごされる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、思い出がある物を持ち込まれて、居心地よく過ごせるよう配慮している。	エアコン・カーテン・ベッド・タンスなどは備え付けになっている。家族の写真を飾ったり・仏壇・テレビなどを持参している。思い出のある若い頃の気になった写真・アルバム・縫いぐるみなどもそばに置かれている。居室内の床を畳柄にしてある部屋もあり、和室の味わいがある。使い慣れたもの・好みのものを活かし、安心して居心地よく過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにしており各通路・トイレ・風呂場には手すりを設置して少しでも自立した生活を送れるよう整備している。又自室やリビングにはカレンダー・時計を設置している。		